

EXPOST

Nov.
2022
VOL. 02
TAKE FREE

EXPOST [エクスポスト]
EXPO+POST(新聞)の造語。
私たち大阪の企業がEXPO2025を
案内し支える万博応援マガジン。

2025に向けTAKE OFF



試験飛行する空飛ぶクルマ=7月18日、兵庫県尼崎市 (写真: 共同)

大阪・関西万博 準備は着実に

2025年の大阪・関西万博の開幕まで900日を切った。参加を表明した国・地域は142(10月25日時点)と、目標の150をほぼ達成。民間パビリオンの概要もまとまるなど、準備は着実に進んでいる。

「空飛ぶクルマ」がゆっくりと上昇し始めると、見守っていた関係者から拍手が起きた。万博開幕1000日前となる7月18日、兵庫県尼崎市で県と一般社団法人MASC(岡山県倉敷市)が開いたデモフライト。2人乗りの機体は高さ30メートルまで上昇した後、5分間、840メートルを無人飛行した。

人を乗せて空を移動する空飛ぶクルマは、万博にあわせて実用化が期待される技術の一つだ。MASCの関係者は「万博での有人飛行の実現に向けて、大きな一歩を進められた」と意気込んだ。

この日は記念イベント「1000 Days to Go!」も東京と大阪で開かれ、東京会場では万博の公式キャラ

クターの愛称が「ミャクミャク」に決まったと発表された。3万件以上の応募の中から選ばれたもので、東京会場に登場した岸田文雄首相は「誰からも愛されるキャラクターになってほしい」と述べた。

これに先立つ5月30日には、パナソニックホールディングス(HD)や吉本興業HD、パソナグループなど12企業・団体が東京で発表会を開催し、それぞれのパビリオンのテーマや展示内容を説明した。

バンダイナムコHDは、人気アニメ「機動戦士ガンダム」で描かれた世界を舞台に、未来社会の課題を考えてもらう展示を計画。パナソニックHDは、こどもたちが非日常的な冒険を通じて自分の可能性に気付いてもらうパビリオンを目指すという。

関西経済復権の起爆剤としても期待されるEXPO2025。今後、準備が加速しそうだ。



このフリーペーパー「EXPOST」は、「第2回大阪・関西万博 開催支援EXPO」に共同出展しているサンケイ総合印刷、真生印刷、デジタル総合印刷、

LAB.AS(ラバス)の4社が自分たちの新聞制作・印刷技術を紹介するとともに、万博開幕への機運醸成に少しでも貢献しようと発行を企画しました。今年3月に開催された第1回開催支援EXPOで創刊号を発行しており、これで2号目となります。

サンケイ総合、真生、デジタル総合は大阪に本社を置く印刷会社。LAB.ASは3社が共同運営しているIT企業です。4社は万博にパビリオンを出展される政府・地方自治体、海外各国、企業・団体の皆さまに、印刷とデジタルの両分野でお役に立ちたいと考えています。11月9・10両日、小間番号「5-9」の4社のブースでお待ちしています。

詳しくは
P.5へ

この新聞の1面と4・5面は英語でも読めます
Pages 1 and 4 to 5 are available in English as well.

あなたも大阪・関西万博に参加できます

共創チャレンジにすでに703件



大阪・難波で「近大生かずきの昆虫食博覧会」を開いた清水さん=中央=ら（清水さん提供）

大阪・関西万博に参加できるのは、パビリオンを出展する政府や企業だけではない。市民グループや自治体、NPO法人、一般の企業でも万博にかかわることのできる様々なプログラムが開幕前から用意されている。その一つがSDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けた活動などを後押しする「TEAM EXPO 2025」の共創チャレンジ。すでに703件（9月末時点）も活動が登録されている。

■昆虫食の普及を目指す

「意外とおいしい」。恐る恐る「コオロギコーヒー」を飲んだ人から驚きの声があがった。今年8月、大阪・難波のショッピングセンターで開かれた「近大生かずきの昆虫食博覧会」。近畿大学大学院農学研究科の清水和輝さん

(23)が昆虫食の魅力を伝えるために企画したイベントで、パネルなどを展示し、販売・イトインコーナーも設けた。食糧問題の解決策の一つとして注目される昆虫食。大学時代からその将来性に興味を持った清水さんは、コオロギの粉末入りコーヒーのような食品を開発し、講演会やYouTubeで昆虫食を紹介するといった普及活動を続けている。今、注目しているのがカイコだ。「繭（まゆ）から糸を取った後のカイコのサナギは、ペットフードくらいしか使い道がありません。しかし、サナギには糖尿病の予防効果などがあるとされる成分が含まれています」カイコ由来のタンパク質が広がれば、衰退した日本の養蚕業の復活にもつながる。清水さんは後輩たちと近

畿大学アカデミックシアターが採択する学生主導プロジェクト「NEXT GENERATION FOOD」の活動をスタート。東京の老舗煎餅店とサナギのパウダーを使った煎餅を共同開発したり、群馬県桐生市でカイコの餌となる桑の木を増やしたりしている。今年3月には「近大生・シルクプロジェクト」という活動名で共創チャレンジに申請し、登録された。清水さんは「サステナブル（持続可能）な資源としてのカイコの可能性を万博で世界に発信していきたい」と意気込む。

■教育の格差なくそう

北海道・渡島半島の北部、函館市と室蘭市の中間に位置する八雲町。夕方、古い銭湯を改装した「やくもの

寺子屋」に子供たちが集まってきた。生まれ育った環境による教育格差をなくそうと、人口3万人未満の地域を中心に小中高生の「学びの場」の開設を目指しているスタートアップ企業「株式会社あしたの寺子屋」（札幌市）の13番目の教室だ。今年4月に開校した。「オンライン教材の発展で学びの格差は解消されたといわれますが、過疎地の多くの子供たちの教育環境はそれほど変わっていないのが実情です」こう語るのは、2020年に同社を創業した嶋本勇介社長(29)だ。各地のパートナーに運営ノウハウやネットワークを提供することで、これまでに全国11都道府県で14カ所の寺子屋を開校している。将来は1000校まで増やしたいという。寺子屋では学習をサポートしてもら

うだけではなく、オンラインで様々な職業の大人や他の地域の子供と交流したり、職場体験したりできる。「いろいろな人に話を聞くことで、自分の知らない価値観に出会える。地方の子供たちにもそんな機会を与えたいのです」こうした考えに共鳴してくれる人を全国でもっと増やそうと、あしたの寺子屋も共創チャレンジに登録している。

■広がる活動の連携

「大阪・関西万博は参加型の万博を標榜しています。これは従来なかった試みです」。2025年日本国際博覧会協会で共創チャレンジを担当する共創推進課の堂野竜也係長はそう強調する。「TEAM EXPO 2025」は、「いのち輝く未来社会のデザイン」という大阪・関西万博のテーマを実現するための参加型プログラム。SDG達成への貢献や社会課題解決のための活動を対象とした共創チャレンジと、共創チャレンジを創出したり、支援したりする共創パートナーの2種類の参加方法がある。共創チャレンジは「社会問題の解決やSDGsの達成に向けた活動、未来へのつながりを作るものなど、自分たちがワクワクする未来のためのアクション」なら、だれでも申請できるという。ただし、2人以上のグループの活動であることが申請条件だ。2年前から募集が始まり、個人グループや自治体、企業などの703件の活動が登録さ

れている。活動内容は教育、健康、文化、観光、地域活性化、防災、国際協力など様々。地域的にも万博が開かれる関西だけでなく、全国から申請があるという。共創パートナーには企業や大学、メディアなど237団体（9月末時点）が登録されている。共創チャレンジに登録されると、公式サイトで活動が紹介されたり、「TEAM EXPO 2025」のロゴマークを使用できたりするが、何よりもメリットが大きいのは他の活動チームや共創パートナーと知り合い、連携できることだ。協会は東京と大阪で定期的にチームなどの交流会を開催。公式ページには、各チームが活動を展開したい地域や共創を希望する相手などが紹介されている。冒頭に紹介した「NEXT GENERATION FOOD」の清水さんたちは交流会で共創パートナーに登録しているサッカーのFC大阪と知り合い、同チームの試合会場で昆虫食を紹介してもらった。こうした具体的な連携も始めている。協会では共創チャレンジや共創パートナーから優秀な取り組みを選び、万博の会期中、会場内の「ベストプラクティスエリア」で展示するほか、会場外やオンラインでも成果を紹介していくことを考えている。堂野さんは「『TEAM EXPO 2025』は会期前から様々な人による活動を発信し、共創を促進するプログラム。万博閉幕後も、この活動をレガシー（遺産）として継承していただくことを協会では検討しています」としている。

※各共創チャレンジの詳細や連絡先は「TEAM EXPO 2025」のサイト（<https://team.expo2025.or.jp/ja/challenge>）を参照してください



福岡県広川町の寺子屋「Irodori Study Lab」で勉強することたち（嶋本さん提供）

共創チャレンジの一例

- MERRY EXPO 2025
いのち輝く笑顔は、多様性と調和。未来への希望である世界中の子どもたちの笑顔がプリントされた傘を開き、平和への願いを発信するコミュニケーションプロジェクト。2025年の万博に向けた機運醸成として笑いの街・大阪から笑顔を増やしていきたいという計画。
- 観光地の新しい当たり前「ツーリストシップ」
スポーツマンにスポーツマンシップがあるなら、ツーリストにもツーリストシップがあてい。そんな発想から観光地と住民が共生できる観光地をつくるため、ツーリストシップの普及に取り組んでいる。現在は京都と奈良で冊子配布などを行っており、全国に展開する考え。
- オンライン歯科健診「HAKKEN」
歯を健康に保つことは全身の健康にも繋がる。自分の口腔内を特殊なミラーで撮影し、写真をスマホで送って歯科医に見てもらおうオンライン歯科健診サービスの普及に京都市の会社が取り組んでいる。検診の自動化やAI化も進め、全世界で展開したい考えだ。
- 泉州美食EXPO
大阪・泉州地域の魅力的な食材を生かして地域活性化を目指すプロジェクト。地元のトップシェフや調理学校、自治体がメンバーで、大阪・関西万博が開かれる2025年には泉州地域をスペイン・サンセバスチャンのような世界を代表する「美食の町」にするのが目標だ。
- AIRを楽しもう～屋外で楽しむバドミントン～
バドミントンをいつでも、どこでも、だれにでも手軽に楽しんでもらおうと、世界バドミントン連盟は屋外競技用に新しいシャトルを開発し、エアバドミントンの普及に取り組んでいる。これを受けて「日本エアバドミントン連盟」が2021年4月、大阪で設立された。
- バーチャル街づくり連合
「リアルに加えてバーチャルも活かした、多層的な参加型クリエイティブ社会」の実現が目標。アーティストと連携したメタバース美術館やAIキャラクターを介したコミュニティ活性化などに取り組む複数のコミュニティが参加しており、今後はその連合体を目指している。
- 徳島の生産者・伝統文化がつくる豊かな未来
東京・西麻布のフランス料理店や元学校長らが地産地消や食品ロス削減をテーマに徳島県内の小学校でライブキッチンを実施し、環境や社会に配慮したエシカル消費の重要性などを子供たちに教えている。「いのちをいただく」ことの意義を発信したいという。

「国の境ない未来」感じたドバイ博

2人の万博マニアに聞く

昨年10月から今年3月までアラブ首長国連邦(UAE)のドバイで開かれたドバイ万博(EXPO2020)。新型コロナウイルスの感染拡大で1年延期し、開幕後も海外客が伸び悩んだものの、最終的に約2410万人が来場した。中東初の万国博は日本人の目にどう映ったのか。現地を訪れた2人の万博マニアに話を聞いた。

「大阪万博が歴代1位、上海万博が2位だとすると、ドバイ万博は3位でした」。そう評価するのは大阪市の藤井秀雄さん(64)だ。

小学6年生の時、1970年の大阪万博を見たのをきっかけに博覧会のとりにこになり、以来、訪れた内外の博覧会は30を超える。ドバイ万博には今年2月初めと3月末の2回、それぞれ1週間訪問し、220あるパビリオンをすべて回った。大手電機メーカーを定年退職後、関連会社に勤めていたが、1回目は新型コロナの水際対策で海外からの帰国者は自宅などで7日間待機しなければならない時期だったため、仕事をやめてまでドバイに行ったという筋金入りのマニアだ。

「大阪や上海は未来を予感させる万博だったが、ドバイには斬新なものはあまりありませんでした」。それでも3位にあげるのには「国の境のない未来を感じさせる」万博だったからだ。

海外からの参加国数でみるとドバイは192か国と、2010年の上海の190を抜いて過去最多の万博だった。ちなみに1970年の大阪は76、2005年の愛知は120。大阪・関西万博は現時点で142、目標は150か国だ。財政的に厳しい参加国のため、大阪・関西を含め共同館を設ける万博は多いが、ドバイではすべての参加国が単独のパビリオンを出展していた。

「ドバイが多国籍国家ということもあるかもしれませんが、いろいろな国の人が自然に交じり合い、これこそあるべき世界だと考えさせられました」

それを象徴していたのは、会場の中央にあり、開会式などが行われた「アルワスルドーム」。高さ67.5メートル、直径130メートルの格子状ドームで、格子の間にパネルがはめ込まれ、全体が世界最大級のスクリーンになっている。ドームの内側にプロジェクションマッピングでさまざまな映像が映し出され、世界中から集まった人たちが



ドバイ万博の会場で世界中の子供の笑顔をプリントした傘を広げる「メリープロジェクト」のメンバー。藤井さんと中本篤宏さんも参加した(メリープロジェクト提供。同プロジェクトについては3面参照)

立ったり、寝転んだり思い思いのスタイルで眺めていた。

ロシアによるウクライナ進軍直後の3月に訪れたときは、ウクライナ館の壁一面に各国の入館者が平和を願うメッセージが貼り付けられていた。

もう一人の神戸市の会社員、二神敦さん(50)は「ガーデン・イン・ザ・スカイ」が良かったという。庭園のように樹木が植えられた展望台が地上から回転しながらゆっくり上昇する高さ55メートルの展望タワー。「このタワーに登ると、会場全体を見渡せるのはもちろん、砂漠の中に人工的な作られた都市であることがよく分かります」

2月にドバイ万博を訪れた際、二神さんはガーデン・イン・ザ・スカイに登るのを最後の楽しみに取っておいたが、2週間にわたる滞在期間の最終日に会場に行くこととタワーはメンテナンスのため動いていなかった。このこともあって閉幕直前の3月に再び、ドバイを訪問したという。

二神さんも、これまでに訪れた博覧会が国内の地方博を含め150近いという万博マニア。「『ネットでなんでも分かる時代に、お前の趣味はもう古い』とよく知人に言われます。でも、リアルに人と出会えるのは万博ならではの良さ。これはネットではできないことです」

ドバイで二神さんはフランスの万博マニアと再会することができた。SNSで知り合い、ドバイの一つ前に開かれたミラノ万博で初めて会った50代の男性だ。この人は、大阪・関西万博の開催が決まると、会場予定地を見たいとわざわざ大阪までやってきたという。二神さんには、こうした知人が海外に10数人いるという。

実は藤井さんと二神さんは知り合いで、3月にドバイを訪れた際に現地でも合流している。二人には、万博の会場で外国人とコミュニケーションを深めるため、必ずしていることがそれぞれある。

藤井さんは帽子とベストに過去に訪れた万博の記念バッジや日本らしいバッジをたくさん付けていく。すると、同じような海外の万博マニアから「いいバッジだね。交換しない?」と声をかけられる。二神さんは浴衣を着て入場することにしており、「前にも万博で会ったね。覚えてるよ」と呼び止められるという。

国境や民族、宗教、言葉の壁を越えた人類の祭典・万博。それを象徴するグッズがドバイの会場で販売されていた。パビリオンで記念スタンプを押してもらったスタンプ帳だ。黄色い表紙にアラビア語と英語で「パスポート」と印刷されていた。会場内を回ると世界旅行が体験できるパスポートというわけだ。会期中盤、100個以上スタンプを集めると白い表紙の特製品をもらえることになり、売店でもっとも売れたグッズだといわれる。

3年後には、その万博が再び大阪にやってくる。藤井さんは「コロナが治

まれば、また海外旅行ができるようになるが万博は特別。世界中の人々や多様な文化に触れあうことができます」、二神さんは「ネットで何でも可能になったと思うのは錯覚。会場に行くことで新たな出会いがあり、ライブでないと体験できない面白さもあります」と、それぞれ大阪・関西万博の開催を楽しみにしている。



ドバイ万博のスタンプ帳。白い表紙のものが特製品

この新聞は英語でも読めます

この新聞の1面と4・5面は、紙とAR(拡張現実)を融合させたサービス「ARスマートペーパー」に対応しており、ARアプリ「COCOAR-ココアル」をダウンロードしたスマートフォンを使って英語で記事を読むことができます。「COCOAR-ココアル」はiPhoneとAndroidに対応しています。ダウンロードは下のQRコードから。

Pages 1 and 4 to 5 of this newspaper are compatible with AR smart paper, a service that integrates paper and Augmented Reality (AR). An English version is available with smartphones using the COCOAR AR app.

最初に、スマートフォンアプリ「COCOAR」をインストール!

COCOARアプリは無料のアプリです。

STEP 1 「COCOAR」アプリのインストール



「App Store」もしくは「GooglePlay」で「COCOAR」と検索し、インストールしてください。

または、左側のQRコードを読み込み、「COCOAR」アプリをインストールしてください。

STEP 2 COCOARを起動してかざす



「COCOAR」アプリを起動し、指定画像にかざしてスキャンしてください。

カメラマークを押すと撮影することもできます。

中之島で「万博の展覧会」

藤井秀雄さんと二神敦さんはもう一人の仲間の中本篤宏さんとともに「EXPOサポーターズ」という共創チャレンジのチームをつくり、大阪・関西万博を盛り上げるためのイベントなどを開催している。チームの協力で「博覧会の展覧会 Part3」という大阪万博やドバイ万博を紹介する展示が現在、大阪市北区の府立中之島図書館で行われている。11月21日まで。

藤井さんたちは2020年10月に共創チャレンジの参加募集が始まると応募。万博の開幕1000日前にあたる今年7月17日には、会場となる大阪市此花区で区役所や地元住民団体と共同で万博の

成功を祈念するイベントを開いた。「博覧会の展覧会」は一昨年か行われ、チームが資料などを提供している。3回目の今年は「太陽の塔が見た未来」をテーマに、大阪万博の太陽の塔やパビリオンの資料、写真、グッズのほか、当時の漫画雑誌に掲載された未来社会の空想イラストなども展示。ドバイ万博の資料や大阪・関西万博の最新情報も紹介している。

会場は中之島図書館3階展示室。展示時間は月曜～金曜日が午前9時～午後8時、土曜日が午前9時～午後5時(日曜・祝日休館)。入場無料。問い合わせは電話06・6203・0474。



紀之定正一さん

紀之定正一

Profile

紀之定正一 1983年、真生印刷に入社。現在、同社常務取締役兼LAB.AS取締役。地域・未来コーディネーターとして堺市を中心に大阪・泉州地域で地域貢献活動にかかわっている。

レガシーどう残す？

EXPO2025の

玉川弘子

Profile

玉川弘子 1992年、大阪商工会議所入所。商店街振興や中小企業政策の提言、報道対応などに携わった後、2016年からDXや実証実験の支援などを担当。2019年から産業部長として「コモングラウンド」などの事業を推進。2021年から現職。



玉川弘子さん

「大阪・関西万博を機に、大阪は新しいことを生み出すチャレンジな都市としてアピールしていきたいですね」。こう話すのは大阪商工会議所地域振興部長兼万博協力推進室長の玉川弘子さんだ。2025年に向けた準備だけでなく、「万博後」も見据えた大商の取り組みについて聞いた。（聞き手は真生印刷常務取締役、紀之定正一さん）

紀之定正一さん われわれの世代は万博と聞くと、1970年の大阪万博を思い出します。私は当時小学6年生で、「月の石」を見るためアメリカ館に長時間並んだ記憶があります。肝心の石のことは覚えていないのですが…。

玉川弘子さん 私は1歳になるか、ならないかでしたが、あの大混雑の中、両親に何回か連れて行ってもらったようです。それほど盛り上がったのですね。大阪商工会議所と万博のかかわりを紹介すると、1963年の新年互例会で杉道助・前大商会頭が佐藤義詮・大阪府知事に提案したのが大阪万博誘致のきっかけになったといわれます。その前に通産省の役人だった作家の堺屋太一さんが大商で万博について話され、先輩から「初めて耳にする万博という言葉が新鮮だった」と聞いたことがあります。実は大商は明治37（1904）年から万博招致を建議していました。さらにさかのぼると、後に初代会頭となる五代友厚が1867年パリ万博への薩摩藩の出展にかかわっています。貿易を発展させ、国や都市を発展させなければならないという思いがずっとあったのです。

紀之定さん 大商さんの目線は昔か

ら海外に向いていたわけですね。

玉川さん 大阪・関西万博の会場建設費は政府、自治体、民間が3分の1ずつ負担します。大商は他の経済団体と共同で募金を集めていますが、「今のわが社があるのは大阪万博のおかげです。恩返しになるなら」と寄付してくださった企業もあり、感激しました。

紀之定さん 「大阪万博の夢をもう一度」という期待は大きいです。

玉川さん 大阪万博は大成功したけど、その後も大阪の地盤沈下は止まらなかったという指摘があります。動く歩道などに提案したのが大阪万博誘致のきっかけになったかという、そうとは言い切れませんよね。

紀之定さん 大阪・関西万博ではレガシーを残さなければならない。

玉川さん 参考になるのは、1990年に開かれた花博（国際花と緑の博覧会）です。大阪万博ほどのインパクトはありませんが、「自然との共生」という精神は花博をきっかけに広まりました。大商も会員企業さんに緑化を呼びかけるキャンペーンをしました。大阪の人の意識も変わったのではないのでしょうか。

紀之定さん 当社（真生印刷）も花

博をきっかけに、小中高校生を対象にした「花と緑の絵画コンクール」を10年間行いました。今年から新たにSDGs（持続可能な開発目標）をテーマにしたポスターコンクールを始めましたが、これはSDGsの目標年である2030年まで続ける予定で、大阪・関西万博の共創チャレンジにも登録しています。

玉川さん 今の時代は「成長一辺倒」はダメですが、衰退していいわけでもない。万博のコンセプトは「未来社会の実験場」です。大商では万博を機に新しいことがどんどんできるような環境を大阪に作っていかねばならないと考えています。そうすれば新しい人がやってきて新しいチャレンジが生まれようになり、大阪の成長につながります。

紀之定さん 大商と大阪産業局は、大阪府・市、経済団体が万博に出展する「大阪パビリオン」の中小・スタートアップ企業向け展示・出展ゾーンの企画・運営を担当されます。その大阪パビリオンのテーマは「REBORN」（再生）です。

玉川さん このテーマには「人は生まれ変わる」と「新たな一歩を踏み出す」という思いが込められています。万博を新たなチャレンジのきっかけにしたい。そういう期待を抱いている企業は多いのではないのでしょうか。それはスタートアップだけでなく、「第二創業」も含まれます。そんな大阪の中小・スタートアップ企業を発掘・支援し、成果や活躍を発信するのが展示・出展ゾーンです。

紀之定さん どうすれば大阪パビリオンに出展できるのですか？

玉川さん 万博の会期は半年間、26週間となります。その1週間ごとに展示企画を変えます。今年はまとも役となる金融機関や公的な企業・団体を対象に、事業企画案を募集しました。来年はそれぞれのまとも役が大阪府内の企業を対象に出展会社を選定します。万博前年の24年には、どんな展示をするか磨き上げてもらいます。1つの企画に10社程度の出展を想定しています。

紀之定さん 堺や東大阪には世界的技術を持つ中小企業があり、ちょうど世代交代の時期を迎えています。若い経営者が挑戦できると面白い。

玉川さん 万博は晴れの場合ですが、ゴールではありません。それまでの過程や、その後の成長も、まとも役と一緒に支援していきたいと思います。

紀之定さん 大商は現実空間と仮想空間をつなぐ「コモングラウンド」（共通基盤）にも取り組んでいますね。

玉川さん 大阪・関西万博はリアルな会場だけでなく、バーチャル空間でも開催されます。バーチャル会場だけで完結せず、リアルとつないで人とアバターがやり取りできるようにしようとすると、いきなり難しくなります。それをシームレスにできるのがコモングラウンドで、建築家の豊田啓介さんが提唱しました。大商は電機メーカーや建設会社、IT企業などと昨年7月、実験拠点を大阪・天満に開

設しました。それを万博会場でやってみて、いずれは都市に実装するという壮大な夢を持っています。

紀之定さん スマートシティですね。

玉川さん これが今後、大阪が実証実験都市として発展していくうえで核になるのではないかと思います。実証実験といえば、大商は大阪府・市と18年度か

ら企業の先端技術実験を支援する取り組みをしています。企業が大阪城公園でドローンを飛ばしたいと思っても簡単に許可してもらえない。しかし、大阪の発展のためになるなら調整しましょうと始めた試みです。その延長線上で昨年从今年にかけて万博会場となる夢洲で空飛ぶクルマや自動運転など9つの実験を

支援しています。こういう実験を万博後でもできるようにしていきたい。

紀之定さん こういった取り組みが万博のレガシーになるわけですね。

玉川さん 私は「やってみなはれ」と「天下の台所」の二つが万博後のキーワードになると考えています。「やってみなはれ」は未来社会の実験場という万

博のコンセプトを引き継ぐものです。新しいことをやりたい人を受け入れる街というのが大阪の今後の方向性で、それを分かりやすく表現した言葉といえます。モノの集散地として発展してきた大阪の特性を生かすことも重要です。「天下の台所」は、大阪のアイデンティティみたいなものだと考えています。

人気の「ミャクミャク様」二次創作もOKに

大阪・関西万博の公式キャラクター「ミャクミャク」の人気が高まっている。その奇抜な姿に当初は「気持ち悪い」という声も少なくなったが、7月に愛称が決まってから、ネットでは「ミャクミャク様」と「様」付で呼ぶ人が急増。日本国際博覧会協会では二次創作のルールを発表し、広がり期待している。



大阪・関西万博の公式キャラクター「ミャクミャク」と壇上に立つ岸田首相＝中央（写真：共同）

公式キャラクターは、細胞をイメージした赤い楕円が連なる万博のロゴマークと「水の都・大阪」にちなんで水を組み合わせたデザイン。約1900点の応募作品の中からデザイナーで絵本作家の山下浩平さんらのグループの作品が選ばれたが、5つの目玉を持ち、腕から滴がしたたり落ちる手で頭を支える姿は賛否を呼んだ。

流れが変わったのは、万博開幕1000日目の7月18日に愛称が発表されてから。協会が4月から募集し、2人から応募があったミャクミャクが選ばれた。それぞれ「人間の素晴らしさを脈々と未来に受け継いでほしい」「万博のテーマである文明や国際的なつながりを脈という言葉で表せれば」との思いが込められている。

愛称の発表後、ミャクミャクという名前には、民間信仰の土着神的な響きがあることから、TwitterなどのSNSで「ミャクミャク様」と呼ぶ人が急増。「実は人好きの異形の神様」「もともとは祟り神だった」という架空のエピソードが投稿されるなど、神格化するような動きが相次いだ。

さらに東京で開かれたコミックマーケットでミャクミャクのコスプレが登場したり、ネットにファンアートが投稿されたりするなど二次創作作品も増えている。

こうした反響もあって、協会は8月30日、ミャクミャクの二次創作ルールを発表した。それによると、個人的に楽しむため公式キャラクターに似たデザインの絵画やデジタル画像、ぬいぐるみ、衣装などの作品を作成し、それを個人のSNSやブログに投稿することを認めるという。

ただし、作品を公開する際は二次創作物であることを明記するよう求め、禁止事項として商品化しての販売や宣伝・広告といった営利目的での利用、公序良俗に反する使い方などを挙げている。

テレビ番組などへの出演もひっぱりだことなっているミャクミャク。協会では「公式ロゴマークに続く、もうひとつの大阪・関西万博のシンボルとして、世界中から愛され、親しみを持たれるキャラクターを目指したい」としており、その人気を万博の機運醸成に活用したい考えだ。

EXPO'70をオマージュ

サンケイ総合印刷/真生印刷/デジタル総合印刷/LAB.AS

「第2回大阪・関西万博 開催支援EXPO」に共同出展しているサンケイ総合印刷、真生印刷、デジタル総合印刷、LAB.ASの4社のブースは1970年の大阪万博をオマージュした展示となっています。

展示の目玉はモニターの前に立つだけでEXPO'70のコンパニオン（ホステス）の制服を試着体験できる着せ替えサイネージ。デジタル総合印刷が日本一の万博グッズ収集家として知られる白井達郎さんからコレクションの制服をお借りして、大阪・西九条にあるLAB.ASのスタジオで写真撮影しました。

ブースでは、「エキスポフラワー」や「日本政府館」など8種類の制服を試着体験できます。

モニターの前に立ち試着したい制服を選ぶと、画面にその服を着た自分の姿が映し出される仕組み。人に合わせて制服も動くため、いろいろなポーズを取ることも可能です。画面に表示されるQRコードをスマートフォンで取り込めば、試着した映像を保存できます。モニターに手をかざすだけで服を変えるなどの操作ができ、衛生面でも安心です。

この「Kinesys(キネシス)」という着せ替えサイネージはIT企業のネクストシステム(福岡市南区)が開発しました。パソコンとモニター、ウェブカメラがあれば、すぐ利用可能。大阪・関西万博でも民族衣装の試着体験などでの活用が期待されています。

真生印刷は、「SDGs(持続可能な開発目標)にどう対応すればいいのか」と考えている皆様に簡単に取り組める方法を提案します。例えば名刺一つでも、環境にやさしい紙を使えば可能。適切に管理された森林から生産された木材を使用したFSC(森林管理協議会)認証紙や野菜や果物の皮を使った「ベジカミ」、古米などを活用した紙素材「コメカミ」などSDGsに貢献する用紙を展示します。

同社は「子供たちと一緒にSDGsを考えたい」として今年夏、本社のある堺市内の小学5・6年生を対象に「SDGsポスターコンクール」を実施。400点を超える応募がありました。このコンクールはSDGsの目標年である2030年まで続ける予定で、大阪・関西万博の共創チャレンジにも登録しています。

LAB.ASのパートナー企業、コギト(京都市中京区)は、地域に残っている貴重な古地図を、最新の地図製作技術で現代によみがえらせる「再生古地図」を展示します。地図上の距離や面積、方角など



大阪・西九条のLAB.ASのスタジオで白井さん=中央=も立ち会って、大阪万博の制服の写真撮影が行われた

を正しく再現し、古地図をスライドすると現代の地図が現れます。例えば江戸時代後期・天保年間の大坂の古地図では、現代の中央公会堂の場所に仙台

伊達家の屋敷があったことがわかります。すでに歴史のある観光地などで活用されていますが、万博開催を機にさらに普及させたいと考えています。

新聞づくりはお任せください

サンケイ総合印刷はフジサンケイグループの一員として長年の新聞づくりでつちかいた技術やノウハウを持っており、いま手に取っていただいているフリーペーパー「EXPOST」が最大の売り物です。

大阪・西九条の本社工場は、大阪・関西万博が開催される夢洲まで車で約20分の場所にあり、「万博会場に一番近い新聞印刷工場」です。

万博の会期中、パビリオンなどで新聞やパンフレットなどの発行を検討されている出展者様は当社にご相談ください。印刷だけでなく、企画・取材やレイアウトといった紙面作成にも対応。紙とAR(拡張現

実)を融合させたサービスを使って日本語以外の外国語に対応することもできます(5面参照)。問い合わせはサンケイ総合印刷(電話06・6462・1951)へ。



このフリーペーパーはサステナブルブラックインクを使用し、CO2削減に貢献しています



サンケイ総合印刷株式会社

- 本社:大阪市此花区西九条2-14-6
- 電話:06-6462-1951
- 設立:1961年



真生印刷株式会社

- 本社:堺市堺区神南辺町5丁152-2
- 電話:072-225-5001
- 設立:1953年



デジタル総合印刷株式会社

- 本社:大阪市東住吉区杭全2-10-1
- 電話:06-7178-5151
- 設立:1952年



株式会社LAB.AS

- 本社:大阪市此花区西九条2-14-6
- 設立:2021年

